



 西南学院大学

学びあいとしての国際法教育 —学生と教育者の間主観性—

根 岸 陽 太（西南学院大学）

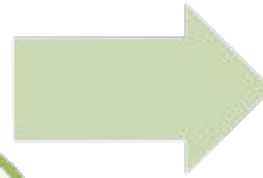
国際法学会 2025 年度(第 128 年次)研究大会





一方通行型教育

- ・【**大人数教育**】
体系的知識を學生に一方的に伝達
- ・【**模擬裁判**】
与えられた枠内での論理的訓練
- ・【**教育姿勢**】
教育者の成功体験を學生に再生産



違和感の発生

- ・【**論点の背景が見えにくい**】
學生は国際法を解釈・適用する以前に「何が問題となっているか」自体をつかみにくい。
- ・【**理性より前にある感性**】
国際法が適用される状況の不正義をどう受け止めるかへの思考・応答が欠けている。
- ・【**教育姿勢**】
教育者が學生からの「突き上げ」によって反省する契機



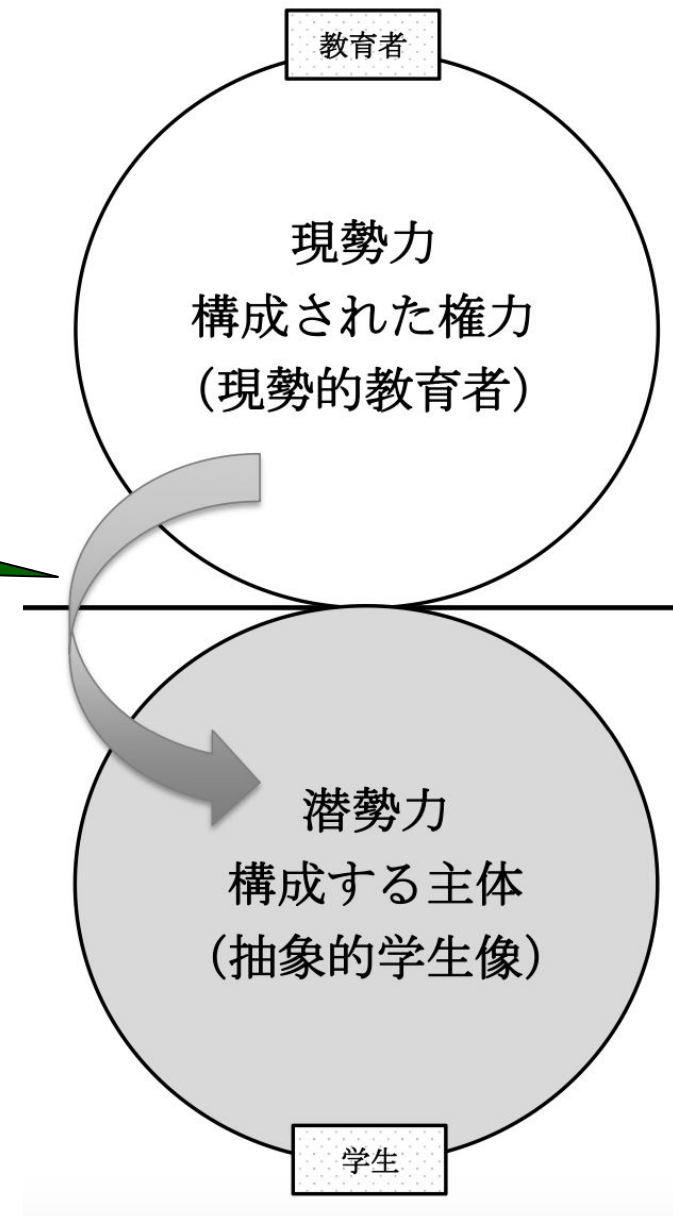
【現勢的教育者：我ら教育者たち(We the Teachers)】

- 制度に基づき知識や権威を備えた「現勢力」
(actuality = ἐνέργεια エネルゲイア) を持つ
- 教育制度として構成された(constituted)権力
- 主体的に教える存在として発言権を握る

【銀行(banking)型教育(cf. フレイレ)】
対話が欠如、学生の批判的視点が不十分

【抽象的學生像：我ら學生たち(We the Students)】

- 将来的にどのようにも成長し得る「潜勢力」
(potentiality = δύναμις デュナミス) を持つ
- その名で教育制度を構成する(constituent)主体
- 受動的に教えられる存在として沈黙を強いられる





第2部 体験シミュレーション

1チーム3～4人のグループに分かれ、被収容者に扮したゼミ生に対して、参加者が傾聴者となり様々な質問をするシミュレーションを行いました。自分が収容されていることに不満を持っている被収容者、特に不満を持っていない被収容者の2パターンのモデルを用意し、そのそれぞれに母国に帰れない理由や家族の状況等の背景を設定しました。



ちむぐくるとは…

沖縄の言葉で「真心・思いやり」を意味し、心の底から相手を想う気持ちを示す言葉。

ちむぐくの国際法は、沖縄から離れた外交で決まる「上から」の国際法（例：日米安保条約・日米地位協定）ではなく、苦しみや痛みを感じている人に寄り添うための「下から」の国際法に焦点を当てていく。沖縄に暮らす人々が抱えるさまざまな社会問題を沖縄出身のメンバーを中心に6名の学生が国際法視点から再考する。

女性差別撤廃条約

\沖縄の方言/

ちむぐくる

子どもの
権利条約

真心

思いやり

生物多様性条約

先住民族の権利に
関する国連宣言

【共省的教育者：私は一教育者(I am a Teacher)】

- 具体的学生の視点から省察を続ける「変 (μεταδύναμις メタデュナミス)として機能
- 教育制度として「構成された権力」から常に化する「生構制された (instituted) 主体」へ

【対話(dialogue)型教育(cf. フレイレ)】
学生の批判的視点による対話を重要視

【具体的学生：私は一学生(I am a Student)】

- 自らの潜勢力の内部に秘めた「非の潜勢力」 (impotentiality = αδυναμία アデュナミア)を保つ
- 教育制度として「構成された権力」に吸収されないために制度を「脱構成する (destituent) 主体」

